

地下資源

日本統計年鑑によれば、今日でも岩手県は北海道を除き、全国第一の金属鉱山県である。

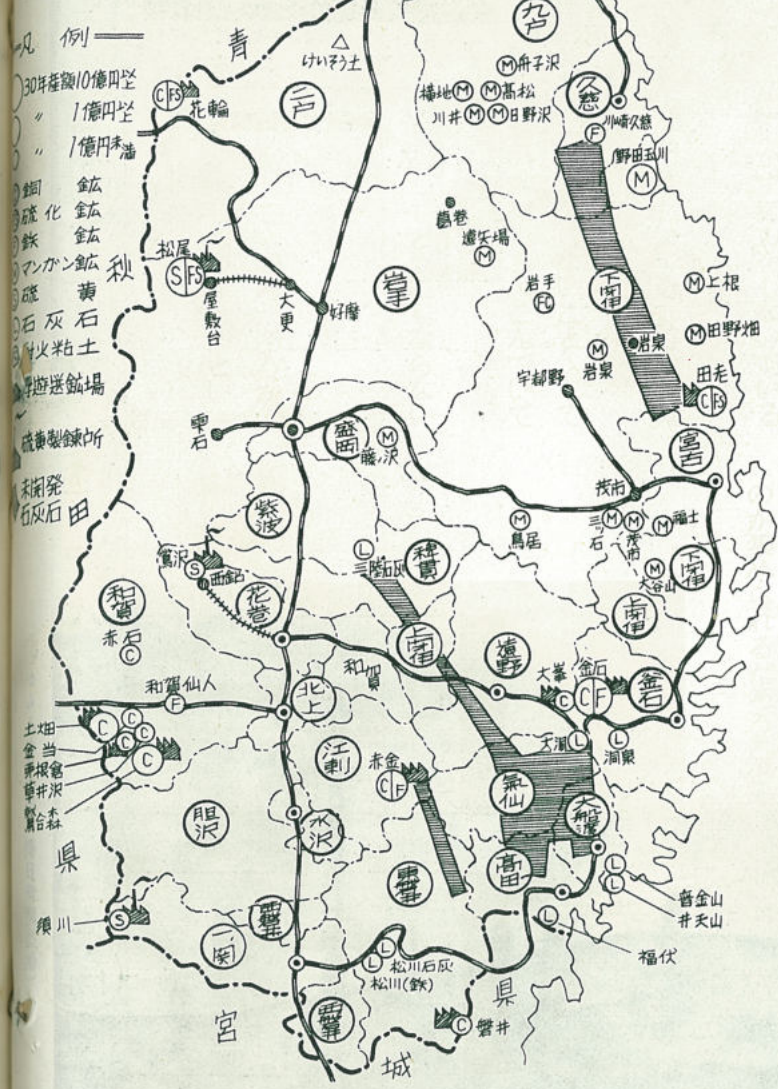
全国には約八千の金属鉱区（約一三三万ヘクタール）がある。このうち、岩手県には六一〇鉱区（約二二万ヘクタール）がある。この数は鉱区数においては全国の七・七％、面積においては八・三％にあたる。

同じことが採掘についてもいえる。全国の採掘鉱区数は約六千二百（約五六万ヘクタール）、このうち岩手県には三二〇（約三万二千ヘクタール）ほどある。これは数において五％、面積においては五・七％にあたる。

また、非金属鉱山では岩手県は福島県に次いで全国第二の鉱区をほこり、文字どおり鉱山王国である。

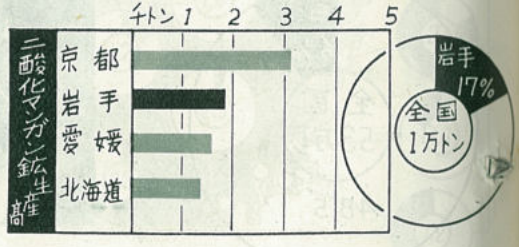
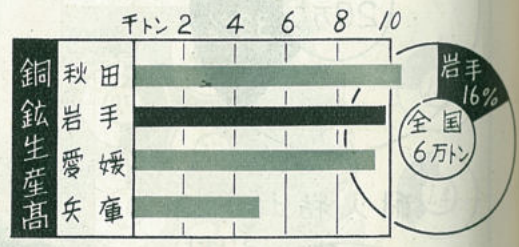
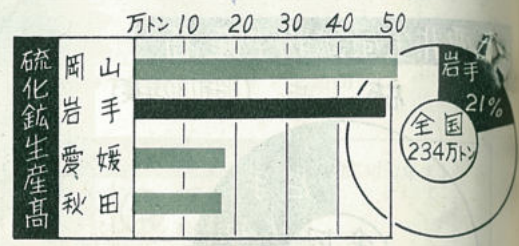
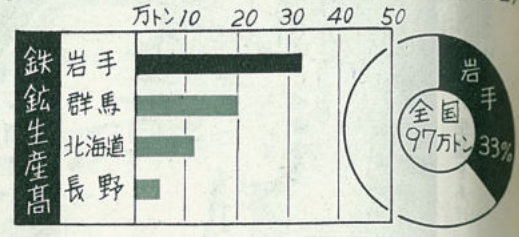
岩手県主要鉱山分布図

(昭和31年10月現在)

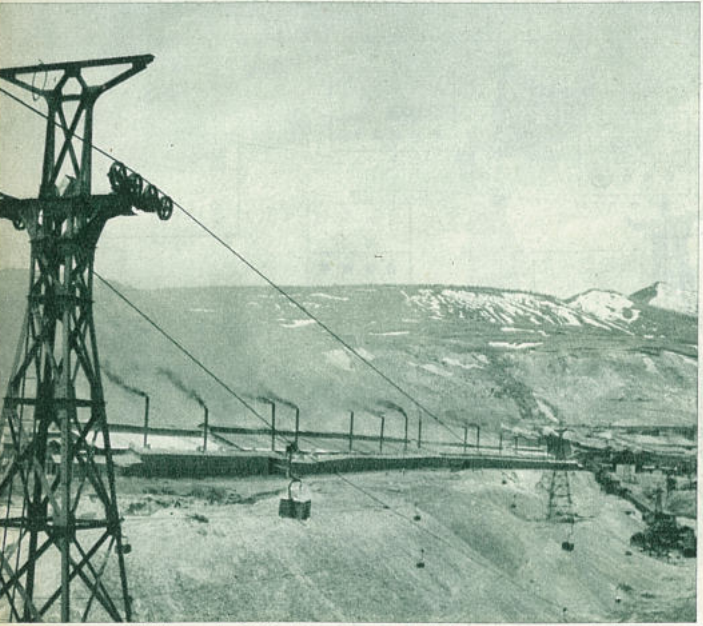


主要金属鉱物生産高

(昭和29年版 日本統計年鑑)



日本一の大鉄山である釜石鉱山は最近銅の生産もぐんぐん上っている。



東洋一の硫黄鉱山である松尾鉱山は硫化鉄でも日本一である。

鉄と問えば岩手の釜石鉱山と小学生でも答えるほど有名である。

鉄は石炭、電力などと共に近代産業の基盤となっている。その原料となる鉄鉱の日本の生産高は約百万トンである。しかし、生産は需用にいつかず、年々六百万トンを外国から輸入している。このなかにあつて、岩手県は日本の鉄鉱生産高の三二％をしめる三二万トンを生産し、名実ともに日本一である。

硫化鉄は全国二位

東北の有名鉄鉱山のビック・テンのなかに、岩手県の釜石、赤金、松尾、和賀仙人の四鉱山が入っているほどである。

銅は第二位に躍進

銅は鉄と、ともに金属の花形である。岩手県では、その銅の生産設備は近年飛躍的に増強されている。釜石、赤金、土煙、鷲合森花輪、田老、磐井、卯根倉などの鉱山はいずれも選鉱場を大拡張した。

マンガン鉱は全国で第二位

釜石は岩手県の北上山脈の中から採掘されている。マンガン鉱山は小規模の鉱山が多いなかに、岩手県の野田玉川鉱山は日本一の規模をほこり、月産七五〇トンの生産をあげている。そのほか、高松鉱山の月産五百トンは有名である。

岩手県は二酸化マンガン鉱では全国第二位、金属マンガン鉱では北海道を除き京都府に次いで第二位である。

アジアに誇る硫黄

非金属鉱物をみよ金属鉱物の多くは国内の需用に不足しているなかで、硫黄は遠く海外にも輸出されるほどの日本の代表的鉱物である。日本の硫黄生産高は約二〇万トン、そのうち、岩手県は三分の一の六万四千トンを生産している。

なかでも、東洋一の生産をあげている松尾鉱山は余りにも有名であり、ほかに東北硫黄鉱山のビック・テンの中に本県の鷲沢鉱山が入っている。

耐火粘土も日本一

岩手県の耐火粘土は大部分「日本粘土鉱業」で年間約三万五千トンを生産している。その製品は、もっぱら製鉄、窯業用の炉材にむけられることと分るとおり、きわめて良質であり、量質ともに日本一である。その埋蔵量は約八千万トンといわれている。